

# 衆議院北朝鮮による拉致問題等に関する特別委員会ニュース

【第198回国会】令和元年5月17日（金）、第3回の委員会が開かれました。

## 1 北朝鮮による拉致問題等に関する件

- ・菅国務大臣（拉致問題担当）から米国出張について報告を聴取しました。
- ・河野外務大臣、菅国務大臣（拉致問題担当）、山本国務大臣（国家公安委員会委員長）、鈴木外務大臣政務官及び政府参考人に対し質疑を行いました。  
（質疑者）串田誠一君（維新）、山田美樹君（自民）、竹内譲君（公明）、村上史好君（立憲）、西村智奈美君（立憲）、笠井亮君（共産）、渡辺周君（国民）、源馬謙太郎君（国民）

（質疑者及び主な質疑事項）

### 串田誠一君（維新）

- （1） 拉致被害者の家族関係
  - ア 拉致被害者家族の年齢及び健康状態の現状
  - イ 政府が把握している情報を拉致被害者家族へ報告する必要性
- （2） 北朝鮮からの漂着船関係
  - ア 北朝鮮からの漂着船に対応する自治体への支援と今後の政府の対応
  - イ 漂着船の撤去費用や乗組員の送還費用を北朝鮮に要求する必要性
  - ウ 漂着回避を北朝鮮へ要請する必要性
  - エ 漂着した乗組員の返還時に拉致問題の交渉を行うことの是非
- （3） 北朝鮮人権状況決議案関係
  - ア これまで国連人権理事会に提出してきた北朝鮮人権状況決議案を今回見送った経緯
  - イ 同決議案の見送りについての拉致被害者家族への説明状況
  - ウ 同決議案の共同提出を見送ったことに対するEUの反応
  - エ 「今回の見送りは北朝鮮への強硬姿勢からの転換」との見方に対する政府の見解

### 山田美樹君（自民）

- （1） 菅国務大臣の訪米関係
  - ア 拉致問題の現状に関する菅国務大臣の認識及び解決への決意
  - イ 日本政府の「対北朝鮮政府の方針転換」に対する国際社会の理解
  - ウ 拉致問題の解決がなければ日朝国交正常化はないとの原則が変わっていないことの確認
  - エ 日本政府の方針に対する米国政府の理解度
- （2） 拉致問題の国民への広報・啓発の取組

### 竹内譲君（公明）

- （1） 北朝鮮による飛翔体及び弾道ミサイル発射関係
  - ア 北朝鮮の発射の意図に対する政府の見解
  - イ ミサイル発射に対する米国と我が国の認識の相違及び今後の国連安保理の動向に対する政府の見直し
  - ウ 北朝鮮の非核化に反対する同国軍関係者と、北朝鮮の深刻な食糧事情に関する外務省の把握状況
- （2） 安倍総理の「条件を付けずに日朝首脳会談を行う」旨の発言関係
  - ア 拉致問題に関する方針転換の有無及びその理由
  - イ 本年4月末の日米首脳会談時におけるトランプ米国大統領からの示唆の有無

- ウ 米朝間の交渉が困難である今だからこそ拉致問題が進展する可能性があるとの見解についての菅  
国務大臣の見解
- エ 今後の北朝鮮との交渉の進め方についての菅国務大臣の認識

#### 村上史好君（立憲）

安倍内閣の対北朝鮮方針について

- ア 「拉致・核・ミサイル問題」の「包括的解決」の意味
- イ 日朝首脳会談に向けての北朝鮮との交渉ルート、内容、相手
- ウ 日朝首脳会談のために「拉致問題の進展」という前提条件を外す意思の有無
- エ 北朝鮮が日本に首脳会談実施の条件を付けてきたときの対応
- オ 北朝鮮がミサイルの発射訓練を再開している状況で「条件を付けずに日朝首脳会談を行う」とし  
たことに対する見解
- カ 安倍総理の発言についての拉致被害者家族への説明状況
- キ 昨年6月29日の家族会等主催の集会で採択された決議に対する見解
- ク 日朝首脳会談が実現した際の日本の独自制裁の解除の有無
- ケ 日朝首脳会談決定と拉致問題の解決の関係

#### 西村智奈美君（立憲）

(1) 安倍総理の発言

- ア 総理が「条件を付けずに日朝首脳会談を行う」と発言した日時
- イ 日朝首脳会談は拉致問題の解決に資するものでなければならないとしていた従来の方針を転換し  
た事実の有無
- ウ 北朝鮮がミサイルの発射訓練を再開している状況で「条件を付けずに日朝首脳会談を行う」とし  
た理由
- エ 米国からの後押しを背景に今回の方針転換を行った事実の有無
- オ 本年5月2日以降の総理の発言が従来の方針と変わらないとする認識の適否
- カ 方針転換による拉致問題解決のための交渉ルートや手法の変更の有無
- キ 従来の方針からの転換ではないとの主張に対する諸外国の理解
- ク 六者会合関係国の中で日本だけが北朝鮮と首脳会談を行っていない状況で、総理が「条件を付け  
ずに日朝首脳会談を行う」と発言したことについての菅国務大臣の見解

(2) 北朝鮮人権状況決議案の国連人権理事会へのEUとの共同提出を見送った理由

(3) 日朝首脳会談実現までの具体的な道筋についての河野外務大臣及び菅国務大臣の見解

#### 笠井亮君（共産）

「日朝平壤宣言」を踏まえた拉致、核、ミサイル問題の包括的解決

- ア 北朝鮮による弾道ミサイル発射
  - a 5月9日のミサイル発射に関する政府見解
  - b 国連安保理決議第2397号に違反している可能性
- イ 国連安保理決議第2397号主文27の内容
- ウ 国際社会が一致して朝鮮半島の緊張緩和に取り組む必要性
- エ 北朝鮮との交渉のスタンスについての河野外務大臣の見解
- オ 国連安保理決議に基づき北朝鮮との対話と交渉を続ける必要性
- カ 米朝両国が朝鮮半島の非核化と平和体制構築に関する包括的な合意を交わした上で段階的に履行

- するのが合理的であるとの考えに対する河野外務大臣の見解
- キ 包括的解決は交渉条件に優劣を付けずに問題解決を図る外交上の知恵とする考え方についての河野外務大臣の見解
  - ク 5月5日の河野外務大臣の記者会見における発言の趣旨
  - ケ 優劣順位を付けずに拉致、核、ミサイルを交渉のテーブルに乗せて包括的解決を図ることが拉致問題の解決につながるとの考え方についての菅国務大臣の見解
  - コ 「日朝平壤宣言」の趣旨を踏まえた拉致問題の解決方法
  - サ 拉致問題の現状及び日本が「日朝平壤宣言」を基礎に朝鮮半島の平和のプロセスに積極的にコミットすることが拉致問題の解決につながるとの考え方についての山本国務大臣の見解

#### 渡辺周君（国民）

- (1) 本年6月28日及び29日に開催予定のG20大阪サミットにおいて拉致問題を議題にすることの有無
- (2) 日朝首脳会談開催について
  - ア 開催時期
  - イ 北朝鮮が条件を付けてきた際の政府の対応
  - ウ 北朝鮮が要求する条件を飲んで首脳会談を実現する意思の有無
- (3) 北朝鮮からの漂着船対策としての警戒システム導入の進捗状況及び海上保安庁の取締りの効果
- (4) 北朝鮮の民主化のために海外で行動している「自由朝鮮」という組織についての政府の認識

#### 源馬謙太郎君（国民）

- (1) 拉致被害者5名帰国後の17年間における政府の取組の総括と今後の見通し
- (2) 安倍総理の「条件を付けずに日朝首脳会談を行う」という発言について
  - ア 拉致問題解決の手段を変更することを示す発言かの確認
  - イ 拉致問題を核・ミサイル問題と切り離して解決する必要性
- (3) 拉致問題解決のため、米国に期待する部分と、我が国が主体的に取り組む部分についての菅国務大臣の見解
- (4) 2月17日の拉致被害者家族会等による金正恩委員長宛てメッセージの発信方法を改善する必要性